

この章では、どのようにしてメシーカ人が 4 つの大きな町村、すなわちショコヌチコ [ショコノチコ]、ショロトラン、マサトラン人、アヨトランと戦い、メシーカ帝国に服属させたかについて扱う。

第 80 章 それからしばらく時が過ぎた。テクアンテペク、ショチトラン人、ヤマシュトラン [アマシュトラン] とトラクイルラン [トラクイロラン]、アカペトラワカンといった町村¹の住民たちは、メシーカ王国に打ち負かされ、これに服属していた。金や貴石、大型の羽根の貢物を納めるために、これらの村々のオストメカトルと呼ばれる商人たちが集まり、今まで貢納を免れていた海岸部に住む者たちの町村へ徴収に向かった。これら町村はメシーカ王国に貢納をすることを約束していたため、商人たちはショロトラン²、アヨトラン [アヨトラン]、マサトラン³、ショコヌチコへ向かった。そこに到着すると、その町村の者たちは集まって、[商人たちに向かって] こう言った。「お前たちは、私たちの村で何を求めているのだ？ お前たちはクルワカン人やメシーカ人に打ち負かされ、彼らに服属したが、私たちまでが打ち負かされたわけではない。お前たちなど、一人残らず、皆、死んでしまうがいい。」 こう言って、人々は商人たちを殺してしまった。そのうち 2 人の若者が逃げ出し、自分たちの村に知らせた。そこからメシコ・テヌチティトラン [メシコ=テノチティトラン] へと、商人たちの身の上に起きたことが伝えられた。それを知ったシワコアトルは、アウイツォトル王の館へおもむき、王への使者が伝えた事の次第を全て話した。アウイツォトルは、どの町村の者たちが、自分に服属する者たちにそのような酷いことをしたのだ、と尋ねた。ショコヌチコとショロトラン人とアヨトラン人とマサトラン人です、と人々は答えた。これを聞いたアウイツォトルは、アクルワカン [アコルワカン] とテパネカの両王に知らせを出すように言い、かの残虐で悪しき海岸地帯の人々に対する戦争のために軍勢を集めるように命じた。シワコアトルは、それでよろしいでしょう、と言って、それからクアウノチトリを呼び、重臣を全員集めさせ、近隣の町村へ伝令を携えて向かい、人々を集めて各々の陣営を急ぎ準備させるようにと言った。その命令を受けて、アクルワカンとテパネカの両王へ向けて使者たちが出発した。使者たちは両王に謁見して、できるだけ早く陣営を整えて、兵糧を用立てるようにと伝えた。同様に、テパネカの王に使者が送られ、王

¹ いずれもオアハカ地方の町村。

² ショコノチコ (チアパス州ショコヌスコ) にある町 (地点不明)。

³ マヤ地方の町で、チアパス州アマタンおよびグアテマラ共和国アユトラ。

はこの使者たちをもてなし、そのような使者に対する王のならわしとして、衣服を彼らに与えた。それから、近隣あるいは山間部のあらゆる町村、オトミー人の町など、メシーカ王国に服属するあらゆる町村へ使者たちは向かった。8日の間で、使者たちはすべての町村に知らせを伝えた。使者たちが戻ってくると、メシーカの武将や重臣全員が集められ、イチカウィピル⁴、盾、鋭利な燧石でできた木剣などの武具を準備するように命じられた。メシコ・テヌチティトラ（ン）へ到着したアクルワカンとテパネカの両王は、アウィツォトル王やシワコアトルと会見した。アウィツォトル王とシワコアトルは、戦争に至るまでの経緯を両王へ説明してから、重臣の^{マヨルト・モ・マヨル}ペトラカルカトルを呼び、とても貴重な羽根が大量に施された紋章と武具、鋭利な燧石でできた木剣を持ってきて、それを両王に贈るように命じた。そして、あらゆる種類の布を5カルガずつと、豪華な衣服を、両王へ贈った。両王はこれらの贈物を受け取り、命じられたままに、急いで陣営を整えるために立ち去った。先述のように、海岸部のショコヌスコ〔ショコノチコ〕、コスカトラン⁵と他の町村への遠征に向けて、あらゆる種類の兵糧を存分に蓄えるためであった。メシーカ人は大急ぎで、強力な武具や履物、若者たち、そして大量の食糧を用意した。若者たちは毎日、武具を使う練習のために、テルポチカルコという学校のある場所に赴いた。そこではアチカウトリ〔軍事教官〕たちが、勇敢に戦う方法を若者たちに教えた。その後、トラカテエカトル〔トラカテカトル〕、トラコチカルカトル、エスワワカトル、テスカコアカトル、トリランカルキ、トクイルテカトル、クアウノチトリ、アトリスカトル⁶らメシーカの重臣に知らせ、アウィツォトルは言った。「遠い町村の者たちに先鋒として行軍を始めるように命じよ。私たちメシーカ人は後衛として進むであろう。」町村への行軍を開始すると、アウィツォトルは、メシーカ人を前方に出し、重臣や王族を人力で運ぶための輿を中央へ移動させるように命じた。そのようにして行軍を開始し、チャルコに着くころには夜になっていた。誰一人としてメシコに留まらないように命じたのは、これが重大な任務であるためであり、逃げ戻ったり、怠けて残って居る者がいた場合には、老人や子どもや神官やトレナマカク〔香炉係〕たちを除いて、たとえ身分のある者であっても、井戸に投げ込んだり、棒で殴り殺したりした。チャルコへ到着すると、チャルコ人はココティトラン⁷でア

⁴ 語彙集によるとエネケン麻や綿の詰物をした胴衣で、戦士たちが遠征中に着用した。

⁵ エルサルバドル共和国クスカトランに存在したピピル人の領地。

⁶ 語彙集によるとアトリスカトルは要職の一つであるとともに、アウィツォトル王の息子の名前でもある。

⁷ イスタクシワトル火山の手前に位置するチャルコ人の町。

ウィツォトル王を出迎えた。彼らは王の身体を撫でさすって挨拶してから、多くの種類の花々、御香、そしてあらゆる食べ物やカカオを捧げた。この3人の王の宿営所すなわち寝所は非常に豪華な布で飾られ、漆喰で白く塗られていた。また、その場所はネバダ山脈と火山の麓にあつて冷え込むため、熾火と炭を入れた火鉢が用意された。翌日、チャルコを出発する際に、〔王は〕こう言った。「さあ、兄弟たちよ、仲間を守るために私たちと共に行くのだ。お前たちは誠に勇敢な者たちである。戦場へと向かうのだ。」訪れた全町村で、王は盛大にもてなされ、十分な食事が供された。王がグアハカ〔オアハカ〕に到着すると、人々は自らの王であるかのように歓待した。彼らを追って、その家臣や友人への辱めを受けていた海岸地域の首長たちがやってきて、王に豪華な贈物をした。王たちは2日間、その場所で休息したが、出発しようとする際も、人々は豪華な紋章、盾、木剣、豪勢な羽根飾りを3人の王に贈った。それから海岸部の者たちがやって来て、アウィツォトル王にこう言った。「我らの王よ、あなたの家臣たちがここに集めたものをご覧ください。これらの豪華な武具や紋章は、王たるあなたの役に立つはずです。」海岸部の素晴らしい富を見て、メシーカの重臣たちは人々に感謝の意を伝えた。王はアクルワカンとテパネカの両王の重臣たちを呼び、それらの武具や豪華な品々を彼らに分け与えた。翌日、アウィツォトルはトラコチカルカトルに対して、テクアンテペクに直行して留まり、そこに陣営を張るように知らせよ、と命じた。それを聞くと、全員で行軍を開始した。それぞれの軍団が宿営所に到着すると、先遣隊の者たちは大急ぎで王やすべての重臣たちのために茅葺小屋を作り、彼らの世話をした。それから各町村の有力者たちは、食事を持ち寄って提供した。それからテグアンテペク〔テクアンテペク〕に王たちが到着すると、有力者たちは、きわめて手厚く彼らを迎え入れた。（王たちは）その町に入り、立派な館で休息をとった。有力者たちは、見たこともないような豪華な羽根でできた大きな天蓋で、王たちを案内して、彼らが入手できるものの中でもっとも価値あるものを、貢納品として献上した。また、非常に豪華な、月の形の黄金の飾りがついた様々な武具と紋章を献上した。それから、テオクイトラ・イシュクアアマトルと呼ばれる、貴石が数多く散りばめられた半冠状の被りものを王に被らせた。他にも多くの武具を、メシーカの重臣全員へ献上した。〔王の〕座る場所は、なめした虎の皮で覆われていた。なぜならこの土地はテグアンテペク⁸と呼ばれ、ヌエバ・エスパーニャ近辺では稀である虎が多くいる土地であつ

⁸ tecuani tepēc 人食い（＝虎・猛獣）の山。

たためである。この土地の寝所には、イウイティルマトリと呼ばれる黒白の毛を用いた毛布が使われていた。翌日、有力者たちは王に対して、あれらの貢物はテグアンテペクの4つの町村、すなわちイシュワトラン、ショチトラン人¹⁰、チルテペク¹¹、アマシュトラン¹²から献上されたものであると説明した。それからアウイツォトルは、速やかに戦いの準備をするように命じた。「裏切り者、残酷な人殺しどもへの報復に向かうのだから、誰一人として町村に残してはならぬ。」そしてマサトランという敵国の港へと到着すると、そこに頑丈な茅葺小屋を作った。それから人々は、王の紋章、貴重な羽根を用いたアウイツォトル王の光り輝く金製のクアショロトル¹³を手にし、アウイツォトル王のハカル〔茅葺小屋〕の中にそれを置き、その陣地の印とした。小屋の周囲には、メシーカの重臣全員の小屋を置き、各町村は、彼らの土地と分かる印を付けた。敵が奇襲を仕掛けた場合に、後で援護するためであった。翌日、アウイツォトル王は、各町村の有力者たちに自らの戦士や臣下たちを鼓舞するように命じた。敵を必ず打ち負かすことができるという希望を持たせ、敵たちはとるに足らない者であることを示し、〔勝者たちは〕多くのものを得られるであろうことや、〔敗者たちが〕その土地で惨めで貧しい生活を送るであろうことや、〔勝者たちが〕長きにわたって富を享受するであろうことを示して、人々を強く鼓舞させた。こうしてすべての集団は、自らを奮い立たせ、次の日にマサトランの町に激しく攻め込み、昼頃には、すべてを破壊しつくした。老人たち、女たち、子どもたちは、山や溪谷や荒野へと逃げ落ちたが、そこで多くの獣の牙に掛かり、皆死に絶えた。そこは暑い土地で、多くの動物が棲んでいるためであった。続いて、アヨトランの人々〔への攻撃〕がなされ、彼らは戦える者が一人も残らないほどに激しく打ち負かされた。続いて、ショロトランへ向かった。すると海岸地帯のすべての人々が集まった。ショコノチコの者たちは言った。「我々は過ちを犯した。我々のせいで4つの町村の民の大半が死んでしまった。クルワ¹⁴や他の海岸部の臣下たちを殺してしまったことにより、多くの老人や老女たち、女たち、子どもたちが、死んでしまうことになった。その惨劇は、我々のせいである。今、我々に何ができよう、何を言えよう。我々にできるのは、4つの町村の者たちがそろって、服属と、貢物を

¹⁰ オアハカ州サン・フランシスコ・イシュワトランおよびフチタン。

¹¹ チナンテコ人の町で、現在のオアハカ州サン・ホセ・チルテペクとされることから、テクアンテペクと地理的に離れている。

¹² オアハカ州ミアワトラン・デ・ポルフィリオ・ディアス。

¹³ 語彙集によると犬の頭部の図像が装飾された紋章。

¹⁴ 語彙集によるとテノチカ人、しいては王国の総称。

納めることを申し出て、和平を乞うことだろう。そうすれば多くの老人たち、女たち、子どもたちの命を救うことができるだろう。」これに全員が同意し、メシーカ人に使者を送ることにした。

【訳：岡崎雅子 2025/02/16】